

令和7年10月入学/令和8年4月入学（第1期）  
地域創生科学研究科博士前期課程  
入学試験問題

社会デザイン科学専攻コミュニティデザイン学プログラム  
「コミュニティデザイン学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

**【注意事項】**

1. コミュニティデザイン学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 答案は試験問題ごとに別の解答用紙を用い、それぞれに受験番号、試験科目名及び問題番号を記入してください。
3. 外国人留学生特別選抜の受験者は、日本語・母語辞書（電子辞書・翻訳機等は除く）を使用することができます。
4. 試験終了後は、解答用紙及び下書き用紙を全て回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和7年10月入学/令和8年4月入学（第1期）

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 コミュニティデザイン学	専攻・学位プログラム名 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム
--------------------	---

第1問

以下の文章を読んで、問1及び問2に答えなさい。

この部分は、著作権の都合上、公開  
できません。

葛原希「小規模・高齢化する集落」地域デザイン科学研究会『地域デザイン思考』2020年  
を一部改変

問 1

関係人口による地域支援についての研究をあなたが行うとした場合、どのような研究課題(解明すべき問い)を設定するか。そして、その研究課題にはどのようなデータが必要で、どのような調査方法でそのデータを収集するか。

問 2

問 1 で解答した調査を行う際、調査対象者への配慮と、データの取り扱いについて、どのようなことに気をつけなければならないか。

令和8年4月入学（第2期）  
地域創生科学研究科博士前期課程  
入学試験問題

社会デザイン科学専攻コミュニティデザイン学プログラム  
「コミュニティデザイン学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

**【注意事項】**

1. コミュニティデザイン学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 答案は別の解答用紙を用い、受験番号を記入してください。
3. 外国人留学生特別選抜の受験者は、日本語・母語辞書（電子辞書・翻訳機等は除く）を使用することができます。
4. 試験終了後は、解答用紙及び下書き用紙を全て回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和8年4月入学（第2期）

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 コミュニティデザイン学	専攻・学位プログラム名 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム
--------------------	---

以下の文章を読み、問いに答えなさい。

我が国ではその地形や気象などの自然的条件により、従来から多くの自然災害を経験してきた。このため、平常時においては堤防の建設や耐震化など災害被害の発生を防止・軽減すること等を目的としたハード対策と、ハザードマップの作成や防災教育など災害発生時の適切な行動の実現等を目的としたソフト対策の両面から対策を講じて、万が一の災害発生に備えている。また、災害発生時には、災害発生直後の被災者の救助・救命、国・地方公共団体等職員の現地派遣による被災地への人的支援、被災地からの要請を待たずに避難所や避難者へ必要不可欠と見込まれる物資を緊急輸送するプッシュ型の物資支援、激甚災害指定や「被災者生活再建支援法」（平成10年法律第66号）等による資金的支援など、「公助」による取組を絶え間なく続けているところである。

しかし、今後発生が危惧される南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震、さらに近年激甚化・頻発化する気象災害等によって広域的な大規模災害が発生した場合において、「公助」の限界が懸念されている。

（中略）

行政が「公助」の充実に不断の努力を続けていくことは今後も変わらないが、地球温暖化に伴う気象災害の激甚化・頻発化、高齢社会における支援を要する高齢者の増加等により、突発的に発生する激甚な災害に対して既存の防災施設等のハード対策や行政主導のソフト対策のみで災害を防ぎきることはますます困難になっている。行政を主とした取組だけではなく、国民全体の共通理解の下、住民の「自助」・「共助」を主体とする防災政策に転換していくことが必要である。現在、地域における防災力には差が見られるところであるが、防災意識の高い「地域コミュニティ」の取組を全国に展開し、効果的な災害対応ができる社会を構築していくことが求められている。

（内閣府「令和6年版防災白書」より抜粋）

【問い】

「自助」・「共助」の具体例に言及した上で、それら「自助」・「共助」の起きやすさ／起きにくさに影響する要因について考察しなさい。続いて、その考察に対応させて、地域コミュニティの防災意識を高める取組を提案し、あわせてその取組の実践にあなたの研究関心が直接的・間接的に寄与できる可能性について論じなさい。字数は1,000字以内とする。

令和8年4月入学（第2次）  
地域創生科学研究科博士前期課程  
入学試験問題

社会デザイン科学専攻コミュニティデザイン学プログラム  
「コミュニティデザイン学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

**【注意事項】**

1. コミュニティデザイン学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 答えは解答用紙を用い、受験番号を記入してください。
3. 外国人留学生特別選抜の受験者は、日本語・母語辞書（電子辞書・翻訳機等は除く）を使用することができます。
4. 試験終了後は、解答用紙及び下書き用紙を全て回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和8年4月入学（第2次）

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 コミュニティデザイン学	専攻・学位プログラム名 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム
--------------------	---

現代社会では、人口減少に伴う地域活力の低下が課題となる中、固有の地域資源を再発見し、持続可能な社会を築く「コミュニティデザイン」が重要視されている。特に行政機関が注目するのは、地域の「自然」を単なる保護対象ではなく、活性化の核として捉え直す視点である。国立公園や里山などの自然環境は、エコツーリズムや環境教育の場として活用されることで、交流人口を呼び込むだけでなく、地域住民のアイデンティティ形成の基盤となる。自然を通じた活動は、行政、住民、NPO等の多様な主体が関わるプラットフォームにつながり、新たなコミュニティの形成を促す。例えば、里山保全を通じて世代間交流や都市住民との繋がりが生まれることは、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の蓄積に直結する。こうした自然を基軸とした地域づくりは、脱炭素社会や生物多様性の保全に加え、地域経済の循環にも寄与する。このように、自然という資源を守り活用するプロセスを通じて、住民自らが地域の未来を描くコミュニティデザインが生じる。このような取り組みは、災害へのレジリエンス向上やウェルビーイングの増進にも不可欠な要素となっている。（環境省『令和3年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』をもとに構成）

問1 文章中の「地域資源」としての「自然」が、コミュニティ形成において果たす役割を200字以内で述べなさい。

問2 自然を活用したコミュニティデザインにおいて、多様な主体の関わりが必要とされる理由は何か、200字以内で説明しなさい。

問3 自然にかかわるコミュニティデザインは、地域の「レジリエンス（回復力）」や「ウェルビーイング」にどのように寄与すると考えられるか、600字以内で論じなさい。